

第2回愛媛大学医学部同窓会東海・中部支部総会報告

第2回東海・中部支部総会を令和5年1月14日、JPタワー名古屋ミッドタウン名駅サテライトで開催しました。長野県や静岡県など東海3県を超えて18名の参加がありました。薬師神芳洋(10期)同窓会会長には今回も来名いただき「愛媛大学医学部の現況開講と50周年記念行事」についてお話を頂きました。また、浜松医科大形成外科学教授の中川雅裕先生(13期)と岐阜大学病理診断科教授の宮崎龍彦先生(6期)に教育講演をお願いし、「みんなの知らない形成外科のがん治療」と「病理学は縁



の下力持ち ～形態診断からがんゲノム診断、そして深遠なる基礎研究まで～」をご講演いただきました。懇親会はJR名古屋駅セントラルタワーズ12Fの「嘉鮮」で開催しました。3年ぶりの宴席の方も多く、また数名が加わり、大学時代の思い出や愛媛の話題で盛り上がりました。第3回支部総会は、令和6年2月23日(金・祝日)16時から今回と同じ会場で開催を予定しております。東海・中部には、200名以上の同窓会員がおられますので、是非とも多くの会員に参加いただけますよう、お願いいたします。

(文責 東海・中部支部 事務局長 大石 久史 8期)

第21回愛媛大学医学部同窓会東日本支部総会報告

愛媛大学医学部同窓会東日本支部総会は、毎年1月の第4土曜日に開催され、本年の第21回総会は1月28日土曜日に19時よりリモート開催されました。

事務局は可能な範囲で頑張りましたが、同窓生の集まりは15名でした。コロナ第8波の影響で同窓会どころではない事情や、連絡がシンプルとなり当日の参加を忘れられた皆さんもおられました。本年の経験を活かし、2024年以降は少しでも多くの同窓生の皆さんにご参加頂き、楽しんで頂けるように準備して参りたいと思います。



第21回の当番幹事は21期卒の岡田一郎先生でした。岡田先生は国立病院機構災害医療センター救命救急センター医長であり、開会挨拶を頂きました。続いて、渡辺修一郎先生(桜美林大学健康福祉学群大学院 国際学術研究科教授; 8期卒)より会計適正処理の報告がありました。

特別講演1は、愛媛大学医学部医学科17期卒で、愛媛大学医学部附属病院総合臨床研修センター長/教授の熊木天児先生より、「コロナ禍におけるシミュレーション教育 ～ピンチをチャンスに変えた愛媛大学の取り組み～ ベッドサイドからのGlobal研究を目指して」をご講演頂きました。肝胆膵分野の世界的な業績を沢山あげられ、生涯インパクトファクターが835点との紹介に一同驚き。愛媛大学医学部卒で愛媛大学病院勤務でありながら、この業績をあげられる時代になったこと、この実績を創れる同窓生が現れたことを大変うれしく思いました。愛媛大学病院で世界レベルの仕事が確実にできている実感を持ってました。また、沢山の医局員や医学生を育てる人材育成のコツは、家康流に得意なことをさせて伸ばせると言われ、ご本人が生き生きと仕事をされておられるお姿が印象的でした。

特別講演2は、当番幹事の岡田一郎先生から、「災害医療とacute care surgery: どのように考え、関わるか」をお話頂きました。東京都心での災害発生時の恐ろしさを紹介後に、災害医療はまず身の回りからの準備が大事。災害時には大量の外傷患者が発生するため、外傷診療も普段から敬遠せず関わっていきましょうとのメッセージを頂きました。この4月から、日本医科大学附属病院救命救急科講師に移られるそうです。

その後は懇親会。12名の皆さんから近況報告を頂きました。なんと10期生までの出席が2名でした。例年20名弱の参加があったことから、コロナ禍で諸先輩方の参加が激減した点を反省して、来年に臨みたいと思います。来年は2024年1月27日に開催予定で、当番幹事は22期生の横浜市立医大の西井先生の予定です。

東日本で働く愛媛大学医学部同窓生が大学病院や総合病院で働く場合は、担当患者の医療連携に支障をきたさないと思います。しかし、自らが開業したり、病院・施設を管理する立場になると、広く頼れる医療連携が必要になります。地元医師会に頼るだけでなく、同窓生の皆さんが東日本での医療連携で困ることがないように、本同窓会の皆さんが繋がり、医療連携の愛媛大学医学部基盤ができれば、嬉しいと思いました。

FBの東日本支部グループを通して、東日本で頑張る同窓生が病院や活動の紹介を投稿して、連携できる機会になればいいと思いますので、是非お気軽にご活用、ご協力して頂けると幸いです。

(文責 酒向 正春 9期)

(東日本支部会長; ねりま健育会病院長・ライフサポートねりま管理者)

第17回 愛媛大学医学部同窓会九州支部総会報告

愛媛大医学部創立五十周年おめでとうございます。

福岡は世界水泳大会が、ウイズコロナの状況の中、開催されております。

約4年のコロナウイルスにより九州支部同窓会が延期となり、今回開催できるか心配しておりましたが、7月22日ホテル日航福岡で行いました。

出席は1期生から19期生までに加え、今年は愛媛大学附属病院総合臨床研修センター長の熊木天児教授が本学より同窓会幹事として参加していただき、同窓会館の寄付につき説明をされました。(参加人数19名)

同窓会は、みんなの再会を喜び合いながら、開催。一方、今年なくなられた木村茂第二外科初代教授に対し、黙祷を行い、開宴となりました。

今年の講演は8期生の酒井浩一先生によるNHK大河ドラマ 韋駄天(いだてん) 金栗四三 春野スヤについてでした。酒井先生はその孫にあたり、金栗氏は1912年ストックホルム大会で、日本人で始めてオリンピックに出場した方で最初の東京オリンピックを招致した協力者の一人です。ドラマ主演の中村勘九郎や綾瀬はるかの素顔を含め秘蔵の写真を披露し講演していただきました。

その後、皆の近況を語らい、和気藹々とした同窓会でした。無事、再会を誓い閉宴となりましたが、今後の課題としては、九州内に200人近く同窓生がいるようですが、なかなか出席していただけないことです。

多くの皆さん今後の出席をお願いします。また同窓生の紹介もお願いします。



事務局 すみい婦人科クリニック（福岡市） 澄井 敬成（8期生） sumiifc@k9.dion.ne.jp
愛媛大学医学部同窓会九州支部長 角 典洋（2期生）

（文責 角 典洋 2期）